

日野市立教育センター一所報

教育センターだより



平成20年6月12日(火)
避難訓練

日野市立教育センター

〒191-0042

日野市程久保550

TEL 042-592-0505

FAX 042-592-1148

開館時間 午前8時30分

～午後5時15分

目 次

- 巻頭言 「教育センター事業は何をめざすか」
日野市立教育センター
所長 篠原 昭雄 p - 1
- 教職員研修の在り方に関する研究
教職員研修の在り方研究委員会 p - 2
- ICT を活用した実践的な研究
ICT 活用研究委員会 p - 3
- 理科教育推進の研究 理科教育推進委員会 p - 4
- ひのっ子教育 2 1 開発委員会の研究
ひのっ子教育 2 1 開発委員会 p - 4
- 郷土教育推進研究の研究
郷土教育推進研究委員会 p - 5
- 教職員の研修 教職員研修係 p - 5
- 一般教育相談 一般教育相談係 p - 6
- わかば教室の活動 学校生活相談係 p - 7
- 教育センター組織図・利用案内
資料・図書係 p - 8



教育センター事業は何をめざすか

日野市立教育センター

所長 篠原 昭雄

開設されて4年、教育センターはこれまで日野市の様々な教育課題やニーズに応えるため挑戦してきました。シンクタンクとしての調査研究、ここでは、学校における環境教育を通じたISO14001（ひのっ子エコアクション）取得のための先行研究、地域との連携を深める日野型コミュニティスクールの研究、異校種間の子どもの学習の円滑な移行を図るための幼・小・中学校教育の接続・一貫性の研究、“ひのっ子”のための郷土教育の推進研究、そして、市を挙げて推進を図っているICTの普及とその活用研究など学校や指導行政担当の抱える教育課題を取り上げて先進的な調査・研究を行ってきました。それは、研修及び相談の各事業においても同様です。それらの状況や成果は『教育センターだより』や『教育センター紀要』『相談部研究紀要』などに掲載しています。

今年度もまた、教育の課題やニーズの重要なテーマに挑戦しています。その事業内容と部・係などについては、年度の初めの『教育センター要覧』にまとめて学校や関係者にお届けしてありますが、この『教育センターだより』は、それら事業の活動の様子をお知らせし、親しみを持ち身近に感じていただくための『所報』です。

今年度も、三つの部を中心に取り組んでいます。その活動の様子は、次の部・係の活動紹介に詳しく述べられていますが、**調査研究部の基礎調査係**では、新たな教育課題と若手教員の増加などにより“教職員の資質向上”が一段と求められていることから、市としての教職員研修とその体制の新たな在り方について研究を行っています。また、**教育経営係**では、ICTを活用した実践的研究を、**教科等教育係**ではICT活用を生かした理科教育推進研究と同じく理科教育の充実を目指す「ひのっ子教育21開発研究」と連携して進めています。

ふるさと教育係では、これまで3か年の郷土日野教育の研究成果を更に発展させた研究を行っています。また、**教育資料・広報係**もそれらの普及を図ると共に電子化による整理を行っています。

研修部では、若手教員の増加や教職員の資質向上が求められる状況に応じて、学校課指導担当との連携を一層密にして教職員研修の充実を図っています。

相談部では、その利用者やニーズの増加とこの問題の多様化、複雑化に応じるため、特別支援教育との関連にも配慮しながら相談機能の充実を図る活動を進めています。

以上のように教育センターの活動は、日野市の教育の充実を図るための重要な課題や増加する教職員や市民のニーズに応えるべく教育センター機能をフルに発して、所員一同使命感と情熱を持って取り組んでいます。その活動の成否は、何と云っても学校・行政・市民の皆様のご理解と積極的なご支援によるものと考えます。

以上のことから、教育センター活動に関心を持ってご支援いただくと同時に、活動の成果を活用していただきますようお願いいたします。

I. 調査研究事業年間活動の概要

調査研究部では、日野市の当面する教育課題である「教職員研修の在り方に関する研究」「ICTの活用に関する研究」「理科教育推進の研究」「ひのっ子教育21開発委員会研究」「郷土教育推進研究」の五研究を関係諸機関のご協力の下、進めています。以下、年間研究のあらましをお知らせいたします。

1. 教職員研修の在り方に関する研究

— 教職員研修在り方研究委員会 — 基礎調査研究係

1. なぜこの研究を取り上げたか

これからの日野市の学校教育においても教職員の資質向上が求められています。教育基本法改正や中教審の答申、それらに基づく新学習指導要領など学校教育における新たな改善が求められています。また、社会の変化に伴い学校教育に対する新たな教育課題も山積みしています。

これまで日野の学校教育は、10年前に設定された『ひのっ子教育21—基本と先進の教育』構想をもとに学校教育が進められ大きな成果を挙げてきました。それが現在、「日野市学校教育基本構想」の検討が進められているように、新たな学校教育の在り方が求められています。

たとえば、現在進められている『ICT活用教育』『特別支援教育』の推進や、地域の教育力を生かし地域と連携して学校教育の向上をはかる学校運営の必要性などがその例です。それを進めていくのは校長や教職員です。

一方、教職員の構成も大きく変わってきました。学習指導、授業改善を目指す教師力の向上が更に求められている現状とともに、若手教員が増加し、それに対応する研修が求められています。

以上のようなことから、これからの日野市における「教職員研修の在り方」について研究をすることにしました。

2. 研究内容

- これまでの日野市の教職員研修について検討し、これからの日野市の特色ある学校教育の充実をはかるための、『教職員研修の在り方』を研究します。

3. 研究方法

- 必修研修、階層研修、課題別研修の現状を把握します。アンケート・聞き取り調査なども取り入れて、新たな在り方を研究します。

4. 研究メンバー

- 学識経験者、小・中校長会代表、担当行政関係者、指導主事、教育センター所員等で研究委員会を組織して研究を行います。

2. ICT を活用した実践的な研究

－ICT 活用研究委員会－

教育経営係

本年度は、ICT 活用の「定着と活用の年」！

日野市教育委員会は、重点目標である「確かな学力の向上の保障」をめざし、学校教育における ICT を活用した授業研究、及び研修事業を進めるとともに、その環境整備に力を入れています。昨年度までに基盤整備を終え、今年度は各校の教育における ICT 活用が日常化するよう、「定着と活用の年」と位置づけています。

< ICT 活用研究委員会 >

学識経験者、ICT 担当校長、ICT 活用教育実践をもつ教員、ICT 活用教育推進室、市教委関係部署課長等、指導主事、教育センター所員等で構成し推進します。教育経営係は主にこの委員会にかかわり ICT 活用推進の一翼を担っています。

◇ ICT 活用実践部会：

学識経験者の指導の下で、以下の4つの部会による実践的研究を行います。またこの実践部会の研究は、松下教育研究財団の研究委託（代表 信州大学 東原義訓教授）を受けております。

- インタラクティブスタディの教師用評価機能の活用（算数）
- カブリ3D授業レシピの活用（数学）
- スタディノートのマップ機能を利用したパタフライ・マップ法の活用（国語）
- デジカメ・書画カメラ・電子黒板の活用（初任者）



第一回国語部会

※部会がスタートしてからまだ日が浅いため、今後変更することもあります。

◇環境整備部会：

日野市、市教育委員会の関係部署で構成しています。今後のICTの基盤整備の計画の作成、特にアナログ放送廃止に伴う、地上波デジタルテレビ放送受信とデジタルコンテンツの活用について、ICTモデル校への導入を検討し、次年度以降への全校の導入の拡大の道筋をつくる予定です。

また、日野市のICTマーク審査の在り方の検討を行うことになっています。

◇教員研修部会：教員のICT活用による指導力向上をめざし、夏季研修講座を計画し実施します。

◆今後のICT活用研究委員会の活動、中でも実践部会の取り組みは、「日野市ICT活用教育推進室のWebサイト（<http://www.hino-tky.ed.jp/ict-edu/>）をご覧ください。

3. 理科教育推進研究

— 理科教育推進研究委員会 —

教科教育係

1. 研究の主旨

ひのっ子の基礎学力向上を目指し、魅力ある理科授業が展開出来るようにする「誰でも好きになる魅力ある理科授業」を構築するため理科教育の向上のあり方を研究し、支援を推進します。

2. 研究の目的

- (1) 魅力ある理科授業を展開する教育センターの役割・支援のあり方を明確にします。
教育センターの授業改善の役割：授業支援体制の確立。 支援への条件整備 教材研究 教材供給 支援員の確保 地域の支援体制等、諸組織等との連携（地元の組織等との連携：例：緑と清流課等）
- (2) 目的達成のため、教育センターとしての理科教育の環境整備のあり方に関する調査研究を行います。
センター理科室の経営のあり方、市の自然を生かした、地域の教材化、
- (3) 併せて「ひのっ子教育 21 開発委員会」等との連携を図りながら研究を推進します。

3. 研究方法等

- (1) 支援に向け、理科教育推進を図るための条件等についての基本になる調査を行います。
- (2) 調査を基に、理科教育を推進するための計画を立案し、次年度に向け、諸計画等の準備を進めます。
- (3) ひのっ子教育 21 開発委員会、及び I C T 教育推進モデル校（理科）等と連携し、総合的に研究を進めます。

4. 組織運営

委員長（1名）小学校校長を委員長に、中学校長を副委員長とします。

委員：理科の研究指定校（3校）校長、ひのっ子教育 21 開発委員会担当校長、及び副校長、主幹で構成します。（ひのっ子教育 21 開発委員会と連携して進めます。）

4. ひのっ子教育21開発委員会の研究

—ひのっ子教育21開発委員会—

1. 主 旨

魅力ある理科授業の展開とひのっ子の基礎学力の向上をめざします。

誰でも好きになる魅力ある理科授業のあり方を構築し、理科教育の質的向上を図ると共に、ひのっ子の基礎学力向上を図ります。

2. 目 的

- (1) 従来の実験・観察指導に加えてデジタル教材を活用することで、より魅力ある理科授業を展開できるよう、理科を教える教師の指導力を向上させます。
- (2) これらの授業の展開を進め、最終的には科学に興味を持ち、科学的に考えることが出来る児童・生徒の育成を図ります。

3. 研究体制

- (1) 委員長（2名）それぞれ小学校部会長 1 名、中学校部会長 1 名とします。
委員（各学校から 1 名以上）
- (2) 小学校：指導方法工夫の実績を基にデジタル教材を活用して実践出来る主幹・教諭
中学校：日常理科の学習指導を行い、デジタル教材を活用工夫し、理科授業の指導改善が出来る主幹及び教諭

5. 郷土教育推進に関する研究

— 地域教育推進委員会 —

ふるさと教育係

伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに・・・
(教育基本法)

「郷土日野」を愛し、誇りをもつ「ひのっ子」を育成するために郷土教育のあり方を研究する。

「日野」の郷土教材の収集・開発

郷土教材を活用した学習活動
の工夫

学習指導法の工夫
資料・情報活用法の工夫

目指す児童・生徒像

- 自然・歴史・文化を理解する児童・生徒
- 郷土の特色やよさを発信する児童・生徒
- 郷土の一員の自覚と誇りをもち、人々と協力する児童・生徒
- 郷土の未来を思い描き実践する児童・生徒

II. 研修部

— 教職員研修係 —

本年度は、職層に応じた研修Ⅰ、現職経験に応じた研修Ⅱ、教育課題研修Ⅲ、幼児教育及び、専門研修全体講演会・人権教育研修会・心の教育研修会が含まれる研修Ⅳの実施のための諸準備等を行っています。また、昨年度は夏季休業中に行われた2・3年次教員の研修を全所員が講師となって行いましたが、この形で本年度も実施の予定です。さらに、今年度は40名の初任者研修を研修係が担当することとなりました。学期に一回の授業参観を行い、その考察や今後の授業のあり方について指導講評を行っています。

(研修内容) ア 職層に応じた研修 (研修Ⅰ)

- ・学校組織マネジメントⅠ (校長) (2回)
- ・学校組織マネジメントⅡ (副校長) (2回)
- ・学校組織マネジメントⅢ (主幹) (4回)

イ 現職経験に応じた研修 (研修Ⅱ)

- ・指定研修(初任者研修) (15回)
- ・若手教員養成研修 (6回)

ウ 教育課題研修 (研修Ⅲ) (夏季休業中)

- ・国際理解教育、環境教育、教育相談、および郷土教育など。
- ・生命尊重教育については多摩動物公園のご協力をいただき、夏季休業中に本年度は1日のみであるが、動物の飼育についての講義と実習に携わります。

エ 特別課題研修 (研修Ⅳ)

- ・幼児教育研修、専門研修全体会、人権教育、および心の教育など (8回)

今年度の教育相談室は、昨年度同様次のような努力目標を掲げて、一人ひとりの個性を大切に、相談をしていきたいと考えております。宜しく願いいたします。

* 20年度の目標

- ・ 多くの方々に利用される相談室にし、教育相談の啓発に努める。
- ・ 関連機関との連携を推進し、積極的に要望に応える努力をする。
- ・ 学校や適応指導教室等と連携を図りながら相談を実施する。
- ・ 専門性の向上に努め、質の高い相談を心がける。
- ・ 相談環境の充実に努める。

相談室は行動面、心理面、発達面、情緒面で課題がみられ、人と人との関わりの苦手な幼児・児童・生徒および保護者の相談を受けるところです。

相談を希望される方は、直接電話でも結構ですが、学校の先生（担任の先生、保健室の先生、スクールカウンセラーの先生、その他）と相談をして、相談室に電話で申し込んでください。電話で済むこともあると思います。相談室に来室していただき継続的に相談を続けることが望ましいこともあると思います。当相談室では課題解決に最適でなく、他の機関が望ましいと考えられるときは他機関を紹介することもあります。来室する1回目は、お子さんの育ちや家族との関わり、生活・行動面、他の人との関わり等を聞き取ることから始まります。その結果を、会議にかけて担当を決めます。親担当、子担当を決めて親担当を中心に2回目以降継続して相談を進めていきます。面接は、心理職が担当しています。

最近、相談内容が多様化・複雑化してきています。外部から見ると原因が分かりやすいものから、考えると複雑で錯綜しているもの、一つ一つ修正することが難しいものまであります。複雑なものは、本人はもとより周囲も時には相談員にも解決の見通しがつけにくいものがあります。そのような時は、他機関や関係者との連携がより必要になります。心理面や発達面での連携は医者であったり、大学などの専門家等であったりすることもあります。行動面や生活面では、子ども家庭支援センターや児童相談所、時には警察も必要なこともあります。とりわけ大切なのは、学校や幼稚園・保育園の担任や担当者およびカウンセラーの方との連絡・連携です。相談室で面接が効果を発揮し、相談者が自分の課題に取り組み始めた場合も、家庭や学校等での適応には、関係者の協力が必要です。普段の生活の中で関わりが上手になり、生活基盤での行動の変化を把握するためにも連携した方向性の確認や情報交換が必要なこととなります。

ケースによっては、医学的な見地からの指示も必要になります。行動をコントロールする必要が生じた場合は投薬等で医師の処方求められますし、特殊な症状等にはかなり専門性の高い対応が求められることもあります。行動上でコントロールする力が及ばないときは、児童相談所や時には警察の力も必要となります。これも大きな意味での連携となります。

近くで殺人事件や不穏な雰囲気になると子ども達は精神的に不安定になります。そのような時に対応するのは臨床心理を学んできた心理の専門家となります。相談室はそのような時も協力をしていきます。変質者や痛ましい事件が報道されています。気をつけたいものです。周囲での変化で、心理的な対応が必要と思われるときには相談室を活用してください。

IV. 「わかば教室」の活動

一学校生活相談係・わかば教室一

学校生活相談係は、学校生活における精神的悩み、人間関係での不満、不登校・登校渋り等、児童・生徒の環境をめぐる問題に関しての相談や支援、健全育成に関する調査並びに資料提供や助言を行っています。具体的な活動は次の通りです。

(1) 相談活動

学校生活上の問題や不登校に関する相談、適応指導教室「わかば教室」に入室している児童・生徒への計画的継続的な個別面談、ひきこもり傾向の児童・生徒への働きかけ

(2) 「わかば教室」通室児童・生徒への指導・支援

「安心して過ごせる学びの場」づくり、学校復帰・社会的自立への援助

(3) 健全育成に関する調査・助言

長期欠席児童・生徒の月別集計・考察、学校訪問、不登校児童・生徒の早期発見と初期対応・予防

(4) 学校・家庭・地域との連携

適応指導教室連絡会、活動状況報告の送付、保護者面談・保護者会・授業参観、通信、地域ネットワーク連絡会、スクールカウンセラー連絡会、地域を生かした体験活動

教育センター所員3名、カウンセラー1名、指導員4名、昨年度と同じ8名のスタッフですが、気持ちを新たに業務に当たっています。「わかば教室」の毎日の学習・生活全般にわたって、学生ボランティアの協力があります。教育センター3階が学校生活相談係のフロアです。

適応指導教室「わかば教室」(連絡先 ☎ 042-592-0863 FAX 042-592-1148)

「わかば教室」では、不登校や登校をしぶる児童・生徒の支援をします。具体的には、「わかば教室」に通う子どもたちが「安心して過ごせる学びの場づくり」に努めながら、好ましい人間関係、集団への適応能力、体力、学習への意欲、基礎学力、社会性や自立心の育成を目指し、個々の状況に応じて、個別あるいは少人数による指導・支援・相談をしています。

※入室を希望される方、内容を知りたい方はお気軽にご相談ください。



地域観察学習・多摩動物公園

◇ 「わかば教室」の一日

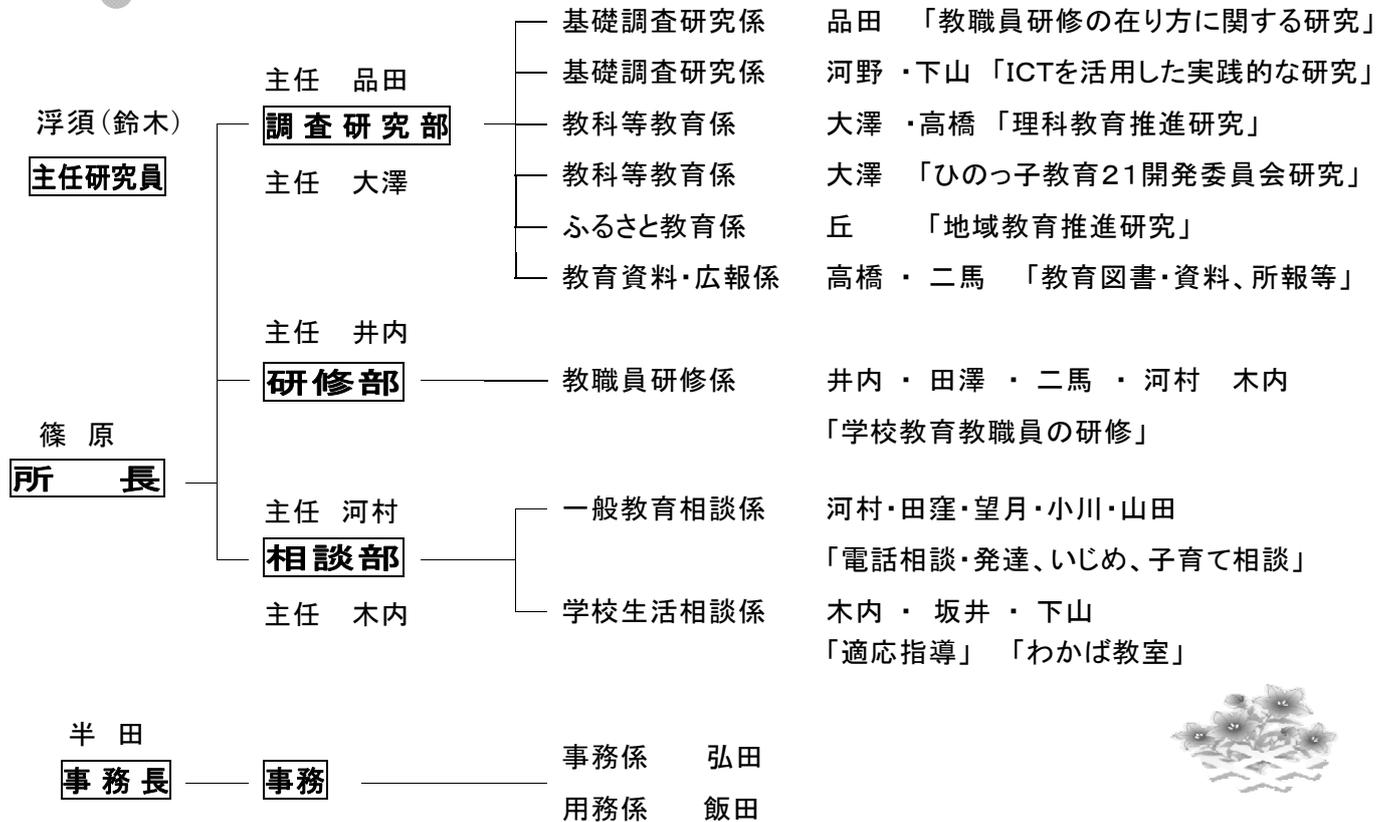
朝の会で始まり、学習タイム(国・社・算/数・理・英を中心に個に応じた学習指導)、わかばタイム(曜日毎に、スポーツ・栽培・音楽・図工・作文を実施)、ミーティング、個別面接(計画的・継続的なカウンセリング)の時程を組んで実施し、帰りの会で終わります。水曜日の午後はスタッフ全員の話し合い時間を設け、子ども一人ひとりの状況に応じた個別計画で指導・支援に当たっています。ふれあいを大切にし、特に昼休みは、毎日元気にスポーツを楽しんでいます。

◇ 「わかば教室」の行事

遠足、酪農体験、誕生日会、スポーツ大会、音楽会、お茶会、老人ホーム訪問、地域の奉仕活動、夏休み学習会、新年を祝う会、卒業・進級を祝う会等

感動体験の重視、自らのよさや存在の大切さへの気づきの学習、定期的に行うカウンセリングで情緒を安定させ、子どもたちに自信を取り戻させていきます。

平成20年度 教育センター組織・係図



教育用：図書・VTR・DVD・資料等を

ご覧になりませんか？

*いつ 月曜 ~ 金曜 9:00~17:00

*手続きは 教育センター2階事務室

蔵書の有無は、市内各小・中学校図書室

からパソコンで検索できます